

同一保健所管内におけるCOVID-19発生事例について

○後藤慶子¹⁾, 永田紀子¹⁾, 黒田 誠²⁾

1) 茨城県衛生研究所, 2) 国立感染症研究所病原体ゲノム解析研究センター

【背景】

当所では日頃よりSARS-CoV-2 PCR検査陽性検体について全ゲノム解析を実施し、積極的疫学調査の補足情報として、活用している。今回、同一保健所管内で、同時期に複数施設においてCOVID-19の発生があり、それらの関連性の解析に全ゲノム解析結果が有効であったため、その概要を報告する。

【方法】

同一保健所管内3施設のSARS-CoV-2陽性検体の抽出RNAを用い、糸川らが開発した方法に準じてライブラリーを作製後、次世代シーケンサーにより全ゲノム解析を行った。ゲノム配列は、国立感染症研究所が提供するWebアプリケーションを用いて決定した。

【結果】

2021年1月から2月にCOVID-19の発生があった3施設でPCR検査によるSARS-CoV-2陽性者はA病院27名、B病院45名、C施設2名であった。そのうち、全ゲノム解析を実施した計36検体（A病院11検体、B病院24検体、C施設1検体）の結果、A病院およびC施設は全てPangolin系統B.1.346であり、B病院は全てB.1.1.214であった。

【考察】

今回、関連性が疑われた3施設のうち、2つの医療機関では、異なる系統のSARS-CoV-2が検出されたことから、施設間の関連性は低いことが示唆された。積極的疫学調査に基づき、加えてゲノム解析結果を還元することは、詳細な疫学調査の一助となることから、引き続き、関係機関へ情報提供を図っていきたい。